

科目名	公衆衛生学			ナンバリング	BSS632	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	後藤恭一	担当教員					

授業の概要	公衆衛生の根幹である健康の概念、健康の保持増進における公衆衛生の必然性と理論的実践的基本を理解し、健康に関わる各分野を網羅的にとらえ、ライフサイクルや生活環境に従って、人々の疾 病予防と健康増進の進め方や、安全と安定を求めるプライマリーヘルスケア、その実践のためのヘルスプロモーションにつき教授するほか、その理解のため基本的な疫学的思考も学ぶ。						
到達目標	・公衆衛生の理念や歴史、現在の公衆衛生システムの特徴など、公衆衛生の基本について理解する。 ・疫学・統計の基本とその活用方法を学び集団の特徴を表す健康指標を理解する。 ・「個」だけでなく、「集団」「社会」「環境」の視点からも健康問題をとらえる必要性を理解する。 ・「個人」「集団」「地域」などを対象とした公衆衛生活動の実践方法を理解する。 ・子ども・成人・高齢者などライフステージ別あるいは、精神保健・学校保健・歯科保健・産業保健・感染症など分野別の各特長や健康の保持・増進、疾病の予防を目指した支援方法について理解する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	予習においてはテキストや関連書籍を熟読するとともに、理解できる箇所、理解できない個所を明確にする。日頃からマスコミ等による報道に関心を持ち、身近で起こっている公衆衛生の問題を把握する。復習においては教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。						
ディプロマポリシーとの関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
		1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
		2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・定期試験並びに小テストにおける得点が60点以上 ・日常生活における感染症、疾病、保健行政等の公衆衛生に関心を持つことが出来る。 ・学んだ公衆衛生の知識が社会とつながり、活かされていることを理解し、抽象的に説明できる	・定期試験並びに小テストにおける得点が80点以上 ・日常生活における感染症、疾病、保健行政等の公衆衛生に関心を持ち、推移、傾向を把握することが出来る。 ・学んだ公衆衛生の知識が社会とつながり、活かされていることを理解し、具体的に説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					60%
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	公衆衛生の歴史 健康と公衆衛生の概念	・公衆衛生の定義、予防活動と集団的努力 ・臨床診療と公衆衛生の違い ・公衆衛生の対象、手段、活動の場	
	第2回	現在の公衆衛生システムと政策	・日本の公衆衛生システムにおける国、都道府県、市町村の役割 ・保健所と市町村保健センターの違いと役割 ・政策における公衆衛生の役割	
	第3回	公衆衛生の理念・概念	・ヘルスプロモーションの考え方とその適用 ・ソーシャルキャピタルの概念と、健康政策における重要性	
	第4回	公衆衛生のものさし(保健統計・疫学基礎)	・人間集団の健康や病気に関する手法「疫学」。 ・保健統計、各種指標	
	第5回	公衆衛生活動のプロセス	・公衆衛生活動・個から地域へ広げる活動の特徴 ・高リスクアプローチ、集団アプローチ	
	第6回	ライフサイクルと公衆衛生-1 母子保健	・子ども・親に関するさまざまな制度・施策 ・健康診査、保健指導など地域母子保健の体系と支援内容 ・母子保健の現状と課題	
	第7回	ライフサイクルと公衆衛生-2 学校保健	・学校保健行政の目的とその内容 ・児童生徒の健康状態の把握 ・学校保健の現状と課題	
	第8回	ライフサイクルと公衆衛生-3 産業保健と環境衛生	・産業保健の目的と、その特徴 ・産業保健活動の内容 ・職業性疾病とその変遷 ・職業による健康影響	
	第9回	ライフサイクルと公衆衛生-4 環境保健、食品衛生	・環境保健、公害、災害 ・食品衛生、食中毒 ・食生活の現状と課題	
	第10回	ライフサイクルと公衆衛生-5 成人保健	・わが国の成人保健対策 ・「健康日本21」等の制度と施策 ・成人保健の現状と課題	
	第11回	ライフサイクルと公衆衛生-6 高齢者の健康	・高齢者保健 ・高齢者のための制度と施策 ・高齢者の健康の現状と課題	
	第12回	ライフサイクルと公衆衛生-7 プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション	・プライマリ・ヘルスケア ・ヘルスプロモーション ・今後の公衆衛生の展開	
	第13回	ライフサイクルと公衆衛生-9 社会福祉と社会保障 －医療保険と介護－	・健康保持増進、社会福祉と社会保障 ・医療保険、介護保険制度 ・社会保険と社会保障の現状と課題	
	第14回	国際保健 日本と世界	・感染、感染症 ・エビデミックからパンデミックへ ・グローバルヘルス ・水平的アプローチと垂直的アプローチ	
	第15回	総括	公衆衛生の目的とは何か、歴史や理論と方法の総括	
	試験			
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。確認小テストを実施する。		
授業外学習の指示		講義で使用するスライド資料は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードできる。 予習(資料の閲覧)と復習(知識の再確認)を必ず行うこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 メディカ出版 ISBN978-4-8404-4913-7
参考書	シンプル衛生公衆衛生学 2018 南江堂 ISBN978-4-524-24019-7
参考URLなど	厚生労働省 各種統計調査 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/toukei/
その他	